

被爆者のあかし

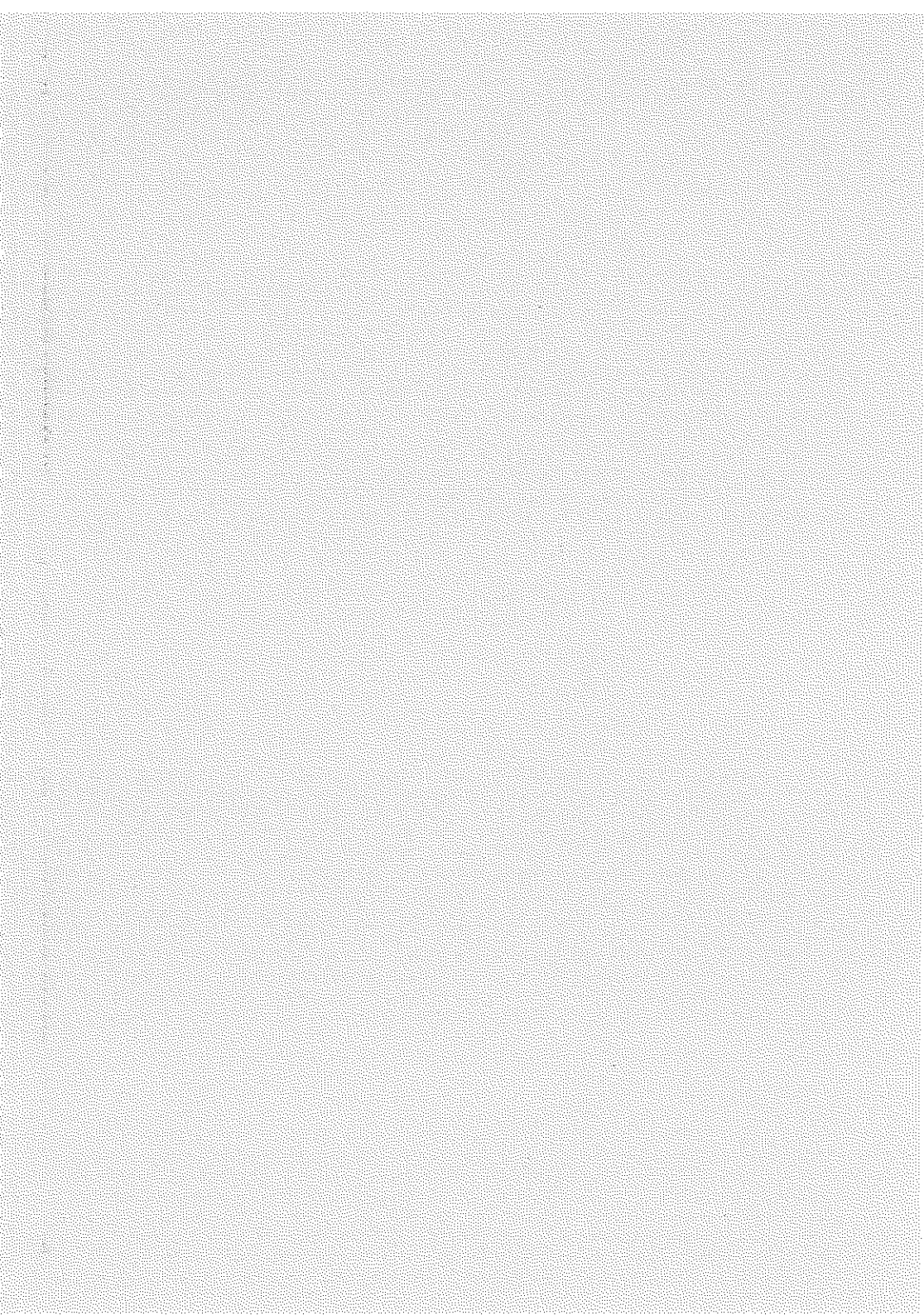
紙 碑

第六集



広島原爆養護ホーム

<http://www.hiroins-net.ne.jp/hirogenen/>



紙 碑

—被爆者のあかし—

第 六 集

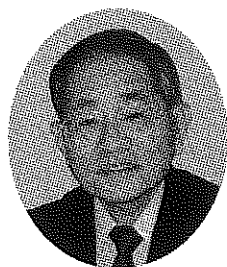
広島原爆養護ホーム

写真提供……川 本 祥 雄 氏

広島原爆被災撮影者の会
広島平和記念資料館
寺本 博氏(表紙写真)

挿し絵……山 原 玲 子 氏
フリーアナウンサー(元中国放送)

はじめに



(財)広島原爆被爆者援護事業団理事長
鎌田 七 男

一九四五年（昭和二十年）八月六日、たった一発の原子爆弾によつて、一瞬にして広島のは廃墟と化し、多くの尊い命が奪われました。あの日から、早くも六十五年を迎えます。

被爆体験記「紙碑」は、「紙に石のごとく将来まで残す」という意味を込め、入園されている方々の被爆者としての思いや生き抜いてこられた姿を後世に長く伝えていくため、昭和五十六年七月 被爆三十五周年・原爆養護ホーム開設十周年の年に第一集を刊行いたしました。その後、節目の年ごとに刊行いたしまして、各方面から温かいご支援とご理解をいただいております。

当原爆養護ホームには、毎年、全国の小・中・高校生を中心とした学校関係や各地域の団体の方々が来園され、入園者から、戦争の悲劇、被爆の惨禍等の体験談を聞き、平和の尊さ、世界平和の大切さについて学習されております。

このたびは、当原爆養護ホーム開設四十周年の節目の年を記念し、直接被爆の方（三十七名）、原爆投下後に入市された方（十一名）、救護活動・看護業務等に従事された方（五名）の合わせて五十三名の方々に貴重な被爆体験のお話しをしていただきました。この第六集には、被爆者の「こんなつらい思いを他の誰にもさせてはならない」という切実な願いと核兵器のない平和な世界の実現を祈る気持ちがあふれております。

被爆者の高齢化が進み、被爆体験の継承が歳月を重ねるごとに困難さを増している中で、この「紙碑」は、被爆直後の生き地獄のような想像を絶する惨状や逃避行動、残留放射線の中を肉親の安否を求め続けた苦悩の軌跡、原爆の後遺症に脅えながら生き抜いてこられた悲痛の生歴史が記されております。本書は、被爆の実相を継承するにふさわしい貴重な体験記として、若い世代を含め、多くの方々に被爆の実相を伝え、平和の尊さを実感できる大変意義深いものだと思えます。

第六集の編纂に当たり、辛く悲しい被爆当時の記憶を紐解かれた寄稿者の方々の勇氣と熱意に深い敬意を表します。

また、前回と同様、貴重な被爆写真の提供をいただきました関係者に深く感謝申し上げますとともに、編集作業に多大なるご協力、ご援助いただきました当事業団退職職員「友の会」の皆様、深甚なる謝意を申し上げます。

「紙碑・被爆者のあかし」

目次

はじめに (財)広島原爆被爆者援護事業団理事長 鎌田七男

舟入むつみ園

十六歳の夏	石原 壽恵子	1
奇跡の被爆体験	沖 鈴江	3
原爆と家族の奇跡	加藤 萬喜子	5
私の原爆体験記	河本 由子	7
被爆で失った尊い生命	木村 英子	10
私の被爆の証し	木村 ヨシエ	12
「ピカッ」眩しい光と大きな音	佐々木 寿美江	15
八月六日の惨劇	清水 美千子	17

広島と長崎での二重被爆を経て	下 廣 鳴 海	19
忘れられぬ両親との再会	新 宅 實 夫	21
平和な日本を願う	高 橋 邑 江	24
友を探して歩いた広島の間	田 中 静 江	26
十七歳の一日	豊 島 敬 子	29
今が一番いい	中 元 芳 江	31
原爆被爆者の六十五年前の苦しい思い出	成 澤 達 雄	34
祈り	西 ミエコ	37
私と家族の八・六	野 澤 秋 子	39
被爆軍人さんの看護体験	野 津 田 ハナコ	42
十四歳の夏	服 部 貞 枝	44
忘れられない八日間	原 田 春 枝	46
焼けた街	平 城 美 代 子	48
原爆被爆体験記	平 田 敦 子	50
私の八月六日	藤 一 二 三	52
怖く悲惨な原爆	藤 廣 千 子	54
消せない記憶	松 永 二 葉	57
私が見た原爆被爆者	村 尾 伊 津 美	59

神田山やすらぎ園

多くを奪った原爆と、反面受けた愛	森田 ヨシエ	61
四本の橋を渡った八月の暑い日	森山 静子	63
被爆の悲惨な思い出	山田 菊江	65
運命の一日	山根 敏江	68
無差別殺戮の戦争の惨さ	山本 チヨノ	71
母へのレクイエム	吉村 壽子	73
人生の出発点で出合った惨劇	和久野 富枝	76

辛い思い出	越道 スエノ	79
前向きに生きる	佐々木 喜代美	82
果たせなかった約束	佐藤 一江	84
平和への祈り	下田 春江	87
悲しい思い出	隅田 ハルコ	90
行き別れになった我が子との再会	瀬川 菊江	94
母との思い出	林 富代	97
思い出したくないあの日	湊 恵美子	100

忘れることのできないあの日の記憶

脇本 菊子

102

倉掛のぞみ園

偶然で救われた命

今田 キヨミ

105

今も忘れられない六十五年前のあの日

岩田 良子

107

この広島で生きること

落畠 トミコ

110

亡き兄を思う

踊場 卓治

113

病弱な母に代わって

川本 艶子

116

戦争は絶対にだめです

小松 喜代子

118

十五歳の夏の空

杉田 邦子

120

被爆後の我が家を見に行く

住原 登始子

123

戦中戦後を精一杯生きて

田中 政美

125

あの広島がなくなった

前田 房子

128

あの日から六十五年

宗清 フタヨ

130

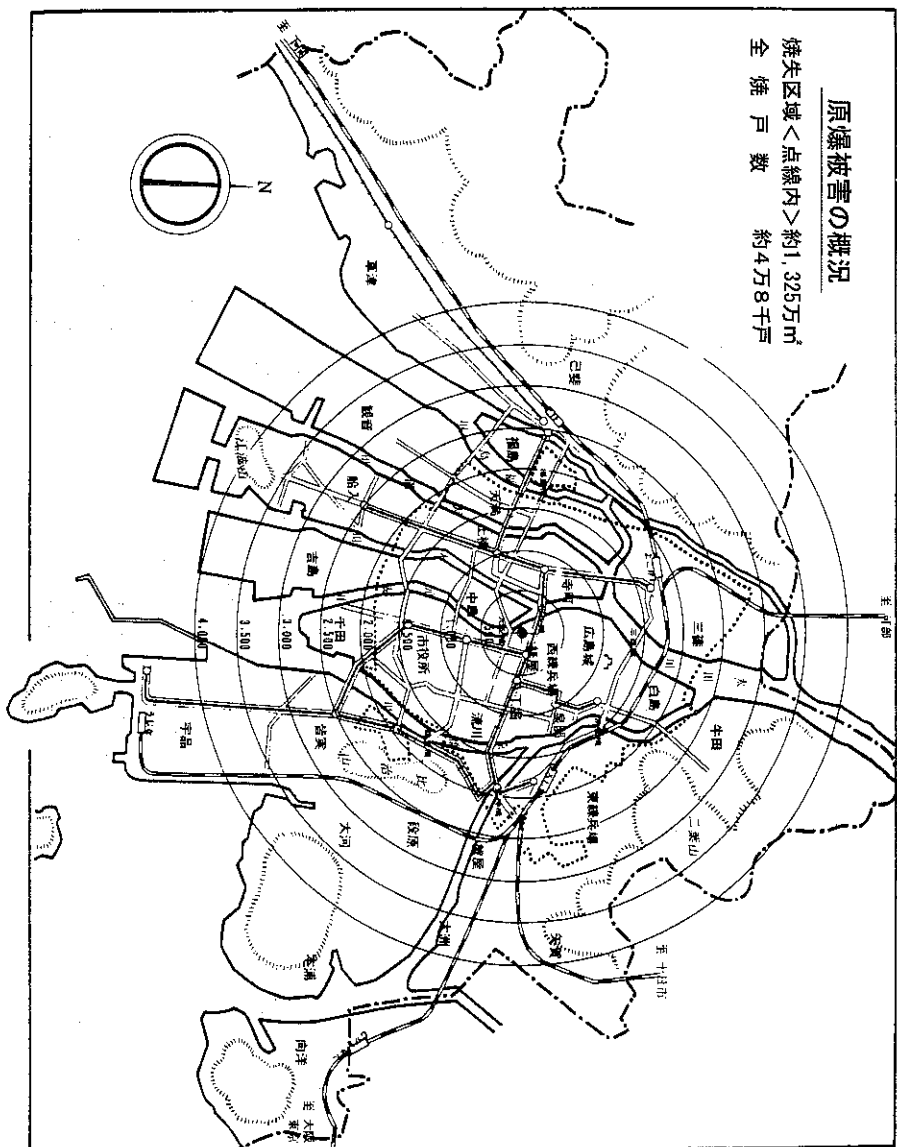


広島県商工経済会の屋上から見た広島県産業奨励館と爆心地付近

建物は一瞬にして大破し、天井から火を吹いて全焼した。爆風がほとんど真上から到達したため、建物の壁の一部は倒壊を免れ、ドームの鉄枠とともに象徴的な姿をさらした。（米軍撮影／広島平和記念資料館提供）

原爆被害の概況

焼失区域＜点線内＞約1,325万㎡
全焼戸数 約4万8千戸



紙碑・被爆者のあかし 第六集

平成二十二年七月一日 発行

編集者
発行者 財団
法人

広島原爆被爆者援護事業団

広島市安佐北区倉掛三丁目五〇番一号

印刷 可部プリント社

〒731-0221

広島市安佐北区可部二丁目三八―二二
電話 (〇八二二) 八二二―三三六五

